

## 東京大学大学院工学系研究科 男女共同参画に関する意識調査

男女共同参画委員会では、男女共同参画を推進するための活動をしています。本アンケートは、本学工学系研究科の教員（任期つきを含む）および大学院学生の方々の男女共同参画に関する調査をおこなうことが目的です。さまざまな専門分野の方々の実態や意識に関するデータは、工学系研究科の男女共同参画をすすめ、学内および行政の施策への提言をするための重要な基礎データとなります。結果は HP 等を通じて皆様にお知らせ致します。21 年度は、女性教員および女子大学院生を対象としたアンケートを実施します。22 年度以降に男性教員および男子大学院生を対象としたアンケートを実施し、男女間の意識の違い等を解析する方針です。

なお、本アンケートは工学系研究科の教員・学生のおかれている現状を把握するためのものであり、個人の特定は一切いたしません。また、目的外の使用もいたしません。是非とも、皆様のご協力をお願いいたします。

工学系男女共同参画委員長  
大久保 達也

○アンケート実施期間

2009 年 7 月 15 日 ～ 8 月 31 日

○アンケート回収方法

返信用封筒により総務グループ総務チーム宛提出  
(専攻事務室の学内便ボックスへ投函ください)

**A. 身分等について(該当するものに○を付け、数字を記入して下さい。)**

教員 (教授・准教授・講師・助教・助手・特任教授・特任准教授・特任講師・特任助教・研究員)

学生 修士 ( ) 年 / 博士 ( ) 年

年齢 (20, 30, 40, 50, 60 歳代)

所属専攻 ( ) 専攻

日常的に利用している建物 ( ) 号館

**B. 女子大学院生の比率について**

本学理系学部進学者の女性比率は 15 % ですが (平成 19 年度)、工学部女子学生の比率は 10 %、工学系研究科修士・博士課程の女子大学院生の比率は、それぞれ 11%・22%です (平成 20 年度)。

1) あなたの所属する専攻における女子大学院生の比率は低過ぎると思いますか？

1. 思う    2. 思わない    3. どちらとも言えない    4. わからない

2) 1)で 思うとお答えの場合、比率はどのくらいであるべきだと思いますか？

( ) %

3) 大学院の女子学生比率が低い場合、院生全体の教育・研究指導に影響を及ぼすと思いますか？

1. 思う    2. 思わない    3. どちらとも言えない    4. わからない

4) 3)で 思うとお答えの場合、それは女子学生にとって positive な影響だと思いませんか？

1. 思う    2. 思わない    3. どちらとも言えない    4. わからない

5) 3)で思う とお答えの場合、それは男子学生にとって positive な影響だと思いませんか？

1. 思う    2. 思わない    3. どちらとも言えない    4. わからない

6) 教育・研究に関して、あなた自身が女性であるために優遇されていると感じたことはありますか？

1. ある    2. ない    3. どちらとも言えない

→あるとお答えの場合、それはどのような時ですか？

( )

7) 教育・研究に関して、あなた自身が女性であるために冷遇されていると感じたことはありますか？

1. ある    2. ない    3. どちらとも言えない

→あるとお答えの場合、それはどのような時ですか？

( )

8) その他、研究・教育に関連して上記以外の男女差にかかわる問題があればお書き下さい。

{ }

### C. 女性教員比率について

表 国内および本学における女性教員比率 (単位：%)

	教授	助 教授 / 講師	准教授
国内全体*1	9.7	16.1	22.9
国内工学系*1	1.2	3.8	8.4
本学工学系研究科*2	1.3	7.4	6.4

\*1) 文部科学省「学校基本調査」平成 16 年度より

\*2) 平成 20 年 4 月 1 日現在

上記のように、工学系の女性教員の比率は特に低くなっており、本学においても、その傾向は同じです。

また、世界的に見たとき、研究者に占める女性比率は、トップがラトビアの 51.5 %、次いで 48.6 % のリトアニア、ブルガリア(46.2 %)、ポルトガル(44.3 %)と続き、米国は 34.3 %、ノルウェーが 29.4 %、フランスは 27.8%、英国は 26.0 %、ドイツは 19.2%、韓国は 13.1%です。日本は 12.4 % となっており、世界各国に比べて非常に低いです。(出典：男女共同参画白書(概要版) 平成 20 年度版)

1) 世界各国と比べて、日本の女性研究者比率がこれほど低いという現状を知っていましたか？

1. 知っていた    2. 知らなかった



3) 研究・教育以外（例えば育児・介護など）に関連した学内の施設・環境・制度に問題があると思いますか？

1. ある    2. ない    3. どちらとも言えない    4. わからない

→あるとお答えの場合、それはどのような問題ですか？

( )

4) その他、要望、意見があればお書き下さい。

{ }  
{ }

### E. 進路等について

1) 進路、就職を考える上で、(研究・仕事の内容以外で)最も尊重したいことは何ですか？(複数回答可) ○をつけてください。

- 配偶者・パートナー／育児／子供の教育／両親の介護／物理的環境／  
職場環境 (人間関係、雰囲気、男女比率など) ／住環境／給料／  
その他 ( )

2) 就職の際に、性別の違いが影響すると思いますか？

1. 思う    2. 思わない    3. どちらとも言えない    4. わからない

→思うとお答えの場合、それはどのようなことだと思えますか？

( )

3) 研究職・専門職では、性別の違いが問題になるとお考えですか？

1. 思う    2. 思わない    3. どちらとも言えない    4. わからない

→思うとお答えの場合、それはどのような問題だと思えますか？

( )

### F. 男女共同参画について

1) 男女共同参画の点から見た時、理科系の研究・教育機関に改善すべき問題があると思えますか？

1. 思う    2. 思わない    3. どちらとも言えない    4. わからない

2) 1)で思うとお答えの場合、それは以下のどのような要因によると思えますか？関係すると思われるもの全てに○を付けてください。

- 歴史／社会通念／大学制度／指導教員／家庭(両親) ／結婚／育児／  
男性の考え方／女性の考え方／その他( )

3) 2)で○を付けた要因について、具体的にどのような問題だと思えますか？  
( )

4) 男女共同参画の推進にあたって、女性を優遇する制度等を(内容によっては期間を限定して)導入するという考え方がありますが、あなたは賛成ですか？

1. 賛成    2. 賛成しない    3. どちらとも言えない    4. わからない

5) 上記4)で賛成とお答えの場合、次の中で賛成できるもの全てに○を付けてください。

ア. 女子学生に限定した奨学金(\*)。    イ. 常勤職を持たない女性研究者のためのフェローシップ。  
ウ. 競争的資金等の応募資格 (たとえば、学術振興会の特別研究員) における年齢制限に育児期間を配慮する。    エ. 出産・育児等で一時的に離職した女性を客員研究員等として登用する。  
オ. 教員等の採用時の年齢制限業績評価に関して育児期間等を考慮する。    カ. 教員等の採用にあたっては女性の比率を一定以上にする(\*)。    キ. 教員・研究員等で女性に限定したポストを設ける(\*)。    ク. その他 ( )

ア、カ、キの(\*)は、国立大学協会で、平成12年5月、平成22年までに国立大学の女性教員(助手・非常勤講師を含めず)の比率を20%に引き上げることを達成目標とした制度として検討されている。

#### G. 工学系研究科の取り組みについて

1) 工学系研究科では、女子大学院生と女性教員との懇談会などをはじめ、様々な企画を計画しています。このような教員と学生との意見交換・交流の場は、問題の解決に役立つと思えますか？

1. 思う    2. 思わない    3. どちらとも言えない    4. わからない

2) パネルディスカッションや意見交換会の場が提供されれば、参加したいと思えますか？

1. 思う    2. 思わない    3. どちらとも言えない    4. わからない

→思うとお答えの場合、意見交換や交流方法のアイデアがあればお書き下さい。

{ }

3) 男女共同参画に関連して、述べたいことがあれば自由にお書き下さい。

{ }

ご協力ありがとうございました。

アンケートに対するご質問、ご意見がございましたら、男女共同参画委員 高井まどか (マテリアル工学専攻、准教授, [takai@mpc.t-u-tokyo.ac.jp](mailto:takai@mpc.t-u-tokyo.ac.jp)) までご連絡ください。